

久留米 (March 19, 2021)

高専通信

第 92 号

久留米工業高等専門学校
〒830-8555 久留米市小森野1-1-1
TEL : 0942-35-9300
<http://www.kurume-nct.ac.jp/>

『技術革新の最前線に立ち
とする君たちへ』

本科卒業生、専攻科修了生の皆さん、ご卒業・修了おめでとうございます。この小森野で研鑽を積み社会に旅立つ皆さんに心からお祝いを申し上げます。学業、クラブ、バイトなどその全ての経験が皆さんの血となり肉となってこれからの活躍を支えることを確信しています。

今世紀に入ってから科学・技術は日進月歩の進展となっています。技術革新・イノベーションの変化は激しく、5G、自動運転、ビッグ・データ、AI、Society5.0など、それらに関するニュースが日々、私たちの耳目を集めます。コンピュータ関連に注目すれば、本科卒業生の皆さんが入学された2016年には、コンピュータが人間に勝つのが最も難しいといわれていた囲碁の世界で、ニューラルネットワークを活用したAIのアルファ碁が、初めて人間のプロ囲碁棋士を負かして世界を驚かせました。2020年11月には、さらに進化したAIのアルファフォールドが難解と言われていたタンパク質の折りたたみ問題を解決したとの報告がなされました。この成果は、疾患の解明、創薬・製薬へ新たな道を拓くこととなります。2019年には、グーグルの量子コンピュータがスーパーコンピュータで1万年もかかるある種の最適化問題を3分20秒で解いたと発表しました。2020年12月には中国のグループも同様の成果・量子超越性を報告しています。量子コンピュータが日常的に使用されるまでには20年ぐらひはかかるだろうと言われていますが、コンピュータの進展は量子コンピュータで終わることは無く、パラダイムシフトも含めて、さらなる進展を続けていくことでしょう。これらの科学・技術の進展は世界のみならず我が国の産業構造も劇的に変えていきます。その影響は大手企業だけではなく地域の中小企業も含めてすべての業種に波及します。

10年間で科学技術が劇的な変化を遂げるような現代社会において、将来、技術者や研究者を目指す若者が獲得しなければならないのは基礎力と好奇心だと思います。大学であろうと企業であろうと、絶えず、新しい技術の創出・チャレンジが求められる時、本科や専攻科で実践力を意識した基礎力を修得した皆さんは自信



久留米工業高等専門学校
校長 本庄 春雄

を持って次のステップに進めます。同時に、科学やテクノロジーだけではなく様々な事柄に好奇心を持って欲しいと思います。経済、芸術、スポーツ、などなど。あなたと同じ脳構造をもつ人は人類史上、今までも、これからも現れることは決してありません。他人が思いつかないようなオリジナルな発想は、そのようなあなたの脳構造の中から飛び出します。好奇心が探究心、創造力の源泉となることは自明でしょう。そのような皆さんが、これからの日本、世界、そして地域の発展を担うということを実感して下さい。

同一年代における高専学生の割合は1%で大学の工学系学生は10%ですので、高等教育を受けた技術者・研究者における高専卒業生は10人に1人いることになります。高専から大学や大学院へ進んだ場合の最終学歴では高専卒業・修了とはなりません、そのような経歴を持つ方で大学や企業の最前線で活躍している著名人は相当数おられます。もちろん、社会的な著名人とならなくても、多くの高専卒業生・修了生が我が国の産業に貢献していることを多くの国民は知っています。皆さん方はその仲間の1人であることに誇りを持って欲しいと思います。ついでに、工学系での活躍ではありませんが、皆さん、ご存じのように、安部龍太郎さんという直木賞受賞作家が本校出身であることも付け加えておきましょう。

皆さん方が従事する産業は私たちの福祉・平和に資するもので無くてはいけません。エネルギー、環境、食料などの深刻な課題の中での持続的発展が問われていますが、膨大な情報処理を行う AI の活用は我々に新たな課題を突きつけています。私たちは新しい概念を創出しながら因果律を基本として物事を理解していきますが、AI は膨大な情報からの経験で理解していきます。私たちにとって AI はブラックボックスのように感じられますが、利用価値は甚大ですので手放せません。脳神経科学と歩調を合わせて進展していく AI は、結果として、「人間とは何か」という問いを投げかけています。これからの時代を担う皆さん方にはその問いを考え続けて欲しいという願いを込めて、卒業・修了の祝辞とします。

卒業生の言葉

振り返り、伝えたいこと

機械工学科 5年 久保山 徳聖

長いと感じた私の高専生活も、終点です。高専生でありながら数学が苦手な私は、友人諸君の助けをしばしば借りました。今になって聞くと、両親は私が高専でやっていけるか心配していたそうで、そんな私が入学初日にクラスの長をすると手を挙げた時は、仰天したそうです。私達のクラスは元気が有り余っていて、頭を抱えることもありました。その元気に救われた時もありました。私をいつも「級長」と呼んでくれた仲間。進学すればそう呼ばれることはもうないのかもしれませんが、そんな日常も嫌いではありませんでした。その呼び方が定着しすぎて、皆から名前と呼ばれるとむしろ違和感があったことが、良い思い出になりそうです。私を認めて仕事を任せて、ときに助けてくれたのが嬉しかったです。ありがとう。

今年度は私達5年生にとって実に難しいものでした。大学や専攻科の受験日程は変更され、就活生も、例年のように自由に各地を飛びまわれない状況でした。きっと他学年の皆さんも思い通りにならないことがあったと思います。特に1年生の皆さんは、クラスメイトに会ったこともないまま遠隔授業を受けて、不安だったのではないのでしょうか。部活動をやっていない人も少なくないと思います。今、私達は限られた機会を活かして、自分なりにやりたいこと、やれることを見つける必要があります。そのために、今からでも部活動に参加してみてもどうでしょうか。

私は、低学年のときロボコン部の活動に没頭しました。ロボット製作で困難な問題に直面する事も多く、冷静に問題と原因を整理することの重要性を実感しました。上級生になり部内での責任が増すとプレッシャーに耐えられない時もありましたが、自分達で設計や加工をして、回路や制御を担当する学生とも共同で望むものをつくる、いかにも高専らしい貴重な体験ができました。この学校には設備が一通り揃っているのも、それらを活用せずに過ごすのはもったいない話です。また、この学校では資格を取得するための試験も実施されており、私も、いくつか資格を取りました。専門的な部活に打ち込んだり、資格取得のために練習したりすると、遠い先の話だけでなく目先の授業や卒研でも役に立ちます。きっと先生方もサポートしてくださるので、ぜひ取り組んでほしいです。

勉強も部活も、支えてくれる人がいなければ、成し得なかったかも知れません。高専で過ごした5年間は、自分の人生の中でもとても大切な時間です。これからを高専で過ごす皆さんにとってもそうなることを願っています。これまでの日々を忘れることなく、私はこれからも進んでいきます。

最後に、先生方をはじめ、支えてくださった全ての方々に改めて感謝致します。

5年電気の卒業生からの挨拶

電気電子工学科 5年 宝満 竜一

久留米高専で5年という月日を過ごし終わったということに驚くばかりです。もうすぐで卒業だということ最後の授業や最後のテスト、卒業研究から実感するたびに寂しい気持ちがこみ上げていました。5年間を振り返ってみて、自由な校風のおかげでかなり自分らしく学校生活を送ることができたように思います。その校風をいままで守ってきた教職員や先輩の方々には頭が上がりません。

私の中で5年間同じ教室で学んだ仲間たちとの思い出はかけがえのない宝物です。入学式の直後の距離感のあるコミュニケーション、宿泊研修で一緒にフィールドワークをしたことなどを今でも昨日のことに思い出します。一緒にいる時間が増えることで揉め事が起こったこともありましたが。私たちのクラスの担任をしてくださった先生方はもちろんのこと、授業をしてくださった先生方もたくさん困らせました。かなり甘い言葉で言えば個性的なクラスだったという印象です。まるで先生方を困らせていないかのようにこの文章を書いている私もクラスの仲間たちと調子に乗って先生方を困らせることが多々ありました。笑ったり、ふざけたり、たまに揉めたり、いろんなことが起きるこのクラスで全員揃ってもう授業を受けることがないのは、とても名残惜しく、もっと一コマ一コマきちんと受けていたらと思います。

これはどのクラスにもあてはまりますが、他の大学に進学する人、久留米高専の専攻科に残る人、企業に就職する人様々います。これから住む場所はみんな離れ離れになり、新しい生活で苦労することや、5年間一緒にいた仲間たちが急になくなったことに寂しさを感じることもあると思います。私も正直、新生活には期待よりも不安の方が大きいです。しかし、楽しいこともあります。私たちの青春とも言える15歳から20歳までの長い5年間を共に過ごした仲間がそれぞれ別々の環境に行き、また10年後、20年後に再会した際に、高専生活での思い出や、それぞれ進んだ先での話をみんなで笑いながらできたら、想像するだけでどんなに幸せだろうと思います。

クラス替えがなく新しい人間関係が増えなかったことは少し後悔する部分ではありますが、久留米高専で同じメンバーで過ごした濃い5年間は自分の人生においてかけがえのない時間になると思います。高専での経験を自分の糧としながら、久留米高専を卒業した後、この個性的な仲間たちに負けないように日々努力を重ねて、いつか再開する日までしっかり生きていこうと思います。

最後になりますが、今まで高専生活を支えてくれた教職員の方々、両親、そして56期電気電子工学科の皆様感謝の意を申し上げます。本当にありがとうございました。

卒業生の言葉

高専生活を振り返って

制御情報工学科 5年 梶原 晃都

入学当時は、5年間という長く、一般的な道筋からそれた進路を歩むことに不安を感じていましたが、過ぎてみるとあっという間だったと感じます。そう感じることができるほどに、充実した学校生活を送ることができた久留米高専を卒業するというのは、少し寂しさがあります。

高専生活は何もかも新鮮でした。十代半ばという人間として未熟な時期に、様々な人たちと出会い、苦楽を共にする中で、自分という人間の在り方を客観的に見直すことができました。勉学では、中学校までと比べて難しく、専門的な内容を学ぶうえ、赤点という高い壁が突然現れたので、最初はついていけないか不安でした。しかし、クラスメイトと協力して教えあい、時には先輩方から過去問やアドバイスをもらいながら、何とか進級しようと頑張ってきたのはいい思い出です。課外活動や学校行事では、自分のやりたいことに打ち込み、いつもとは違う人たちと協力し、時には学業をおろそかにしながらも、何かを成し遂げる達成感や、団結することの楽しさを学ぶことができました。

もちろん、こういった経験のすべてが『楽しい』だけではありませんでした。時には辛く苦しいことに挑戦しなければならないこともありました。しかし、そういう経験こそ、普通の高校ではなく、高専だからこそ得られた貴重な経験だったと思います。

来年度から、僕たちは今までとは違った環境で生きていくこととなります。いままでの多くの人から支えられてきた生活から、自分のことは自分でやらなければならない生活へ移り変わる人がほとんどでしょう。そういった中でも、停滞せずに、さらに多くのことを学び、考え、実行し、前へ進むことを心がけようと思います。

近年、インターネットの普及に伴って、だれでも専門的な知識を学ぶことができるような環境が整いつつあります。このことの表れとして、最近の制御科の低学年の学生を見ていると、僕たちの世代に比べて、専門的な技術をすでに身に着けている人や、新たな技術を身に着ける能力が高い人が増えてきているように感じます。そういった人たちは、休日や自由な時間を、自分の学びたいことのために使っている傾向があるように思います。数年後、僕たちと同じように卒業するであろう彼らに追い抜かれぬように、これからも精進を続けていきたいと思っています。

最後になりましたが、これまでとても多くのことを教えてくださった先生方、多くの刺激と楽しい日常生活をくれた同級生、新鮮な体験と新たな知見をくれた後輩たち、そして充実した学校生活を送らせてもらった久留米高専に心からの感謝を込めて、終わりの言葉とさせていただきます。今まで本当にありがとうございました。

5年間ありがとう。

生物応用化学科 5年 古賀 大晴

私は入学当初、高専に来る人と仲良くなれるかや、勉強について行くことはできるのだろうかなど、不安ばかり抱えていました。

しかし入学してみるとクラスメイトはみんな優しく、部活動を通して縦のつながりはすぐにでき、勉強にも無事について行くことができ、気がつけばもう卒業の年となっていることを信じることはできません。それもこれも、クラスメイトや先生方の支えがあったの物だと思っています。この場をお借りして御礼申し上げます、ありがとうございました。それでは折角の機会ですので、5年間を振り返ってみます。

入学したての1年時から様々な行事が押し寄せてきました。まず、夜須研修。この頃はまだクラスメイトのことをよく知らなかったのですが、この2日間でクラスメイトのことをよく知ることができ、クラスの輪が一気に広がったと思います。そしてその後は団体コンテスト、高専祭…と、一年はあっという間でした。

そして2年次は部活動、勉強に一生懸命に取り組んだ一年でした。所属していたバドミントン部の顧問を5年間通して務めてくださった龍頭先生にもこの場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございました。他にも、工場見学や、2度目の高専祭は本当に楽しく、充実した1年を過ごしました。

そして3年次。勉強が一気に専門的になり、ついて行けなくなりました。しかし、素晴らしいクラスメイトに恵まれていたため、助けてもらいながら何とか自分なりの勉強方法をつかむことができ、4年生に上がることができました。また、この年はクラスメイトと高専祭でピアノを演奏したりと、非常に充実した一年でした。そして4年次。この年はなんとといっても工場見学旅行。みんなで行った東京ディズニーランドはいうまでもありません。場内に入っただけで楽しいです。他にもインターンシップにいたり、いい経験を積み重ねていただきました。

そして今年、コロナウィルスに始まり終わった一年でした。2月に受ける予定をしていたTOEICはまさかの中止、そして受験日の変更…本当に大変な一年でした。そんな中でもリモートで授業を行ってくれた先生方、本当にありがとうございました。また、このような状況下でも、様々な方々の協力のおかげで無事に高専祭が開催され、進学先も無事に決まり、最高の一年でした。そしてなによりも、こんなに充実した5年間を過ごすことができたのはクラスメイトに恵まれていたからだと思っています。自分を含め高専生は変わり者が多く、様々な観点から物事を捉えることができたり、純粋に一緒に遊んでいて楽しかったり…と、数え切れないほどの思い出があります。今後は就職と進学で道が分かれていきますが、みんなと出会えて本当に良かったです。5年間ありがとう！

卒業生の言葉

根拠のない自信

材料工学科 5年 岩切 幹太

思い返せば5年前、部活の顧問に無謀だといわれた久留米高専に合格した。嬉しかった。とにかく嬉しかった。担任の先生とインターネットで「合格」の二文字を確認したときの喜びはいまでも鮮明に覚えている。

そして15歳の春、久留米高専に入学した。その後、僕はたくさんの友達にめぐまれた。持て余した時間はすべてその友達とカラオケやボウリングに明け暮れた。とにかく嬉しかった。まさに僕が中学時代に望んでいた最高の生活をおくっていた。僕は進学校の友達が大学受験に向けて必死に勉強している中で遊びほうける日々、優越感を感じていた。しかし、入学して1年が経ち何事にも中途半端な自分であることに気づいた。中学時代あんなに頑張っていたテニスだけでなく学校の成績もパツとしなかった。おまけに、初めての結婚式場でのバイトもお客様にワインをかけてしまうという失態をおかし、すぐに辞めてしまった。「このまま高専生活を終えた時に僕には何が残るのか?」「今、何か夢中になれるものはないのか?」と考えに考えた結果、勉強にかけることにした。そして、まずは学科内席次1番を取ることを目標にした。さっそく、モチベーションを上げるために筆箱の中身を全部新品に変えた。そして、立てたことのない勉強の計画を立て、眠たい3限目も起きて授業を聞いた。しかし、一向に1番をとることはできなかった。心の片隅では「ギリギリで入学した僕にいい成績なんて取れるわけない」「自分より頭のいいやつなんか山ほどいる」と思っていた。そんなとき、漫画ナルトの登場人物マイト・ガイのある言葉が頭に浮かんだ。「自分を信じないやつなんかに、努力する価値はない!」確かに、高い目標を掲げそこに向かって努力することは容易なことではない。それでも努力し続けるには何が必要なのか?それは「自分ならできる」という根拠のない自信である。その日から僕は、この言葉に勇気づけられ自分を信じて努力し続けた。その結果、3年生になってはじめて1番と書かれた成績証明書がわが家に届いた。たかが紙切れ1枚だが、その成績証明書は僕にとって大きな自信となった。遊ぶことは、遊ぶことで楽しい思い出となったが、苦勞して達成した目標はそれを超える計り知れない充実感があった。そして、これからは僕は自分を信じてさまざまなことに挑戦し続けて行きたいと思う。

最後に、5年間僕と仲良くしてくれた56期材料工学科のみんな本当にありがとうございます。みんなのおかげで楽しい高専生活を送ることができました。高専祭、クラスマッチ、工場見学旅行などのたくさんの思い出は僕の一生の宝物です。10年後、20年後みんなと同窓会できる日が楽しみです。連絡待っています!

修了生の言葉

振り返り、伝えたいこと

機械・電気システム工学専攻科2年 川戸 大誠

高専生活7年間で得た一番大きなものは、多くの人脈です。この7年間、自分は人間関係にはとても恵まれて過ごすことができました。思い返すと、クラスでも部活でも委員会でも、周りの人に支えられ充実した時間を過ごせたように思います。特に7年間を通してクラスメイトに恵まれ、試験や研究発表を乗り越えることができました。卒業後も高専で築いた人脈を大切にしていきたいと思っています。また、高専に在学したこの7年で自分は多くの人と接する中で、人前で話す力が成長したと感じています。本科では様々な部活動や委員会に所属し、集団の中で発言する機会が多くありました。高専入学当初は人前で話すのが苦手で、委員会などには入りたくないタイプでしたが、苦手を克服するために敢えて多くの部活動や委員会に所属しました。軽音部の活動で人前に出て演奏したり、体育祭実行委員長として学生の前で話をしたりした経験は、自分にとって非常に大きいものになりました。バンドのメンバーや本科から専攻科を通しての研究室の同期はコミュニケーションが上手な人ばかりで、それを見ながらどういう風に話せば良いのか、多くのことを学ぶことができました。彼らにはとても感謝しています。そういう経験が学業の面でも大きく活かせる場面もありました。研究やインターンシップの発表、大学院の入学試験の面接などです。それぞれに、終わってから、もっとこうすべきだったと思うことは何点かありましたが、過去の経験が活かしているという実感はありました。話をする際に重要なことは内容が半分、話し方が半分だと思います。例えば学会などの場で発表を行う際、研究内容がどれだけよくても、話し方や図の見せ方が雑だとうまく伝わりません。同じ内容でも発表の仕方によって、見ている側の評価が大きく違ってきます。伝えたいことを上手く伝えられるようになるには、発表の場数を踏んでその度に反省点を探し、次の発表に活かしていくことが必要です。専攻科では発表を行う機会が多く設けられており、専攻科に在学した2年間で発表をする力は大きく伸びたと感じています。大学院の入学試験の面接では、自分の中で終わった後に達成感があるくらい上手く研究内容の発表をすることができ、無事に合格することができました。まだまだ足りない部分はありますが、大学院に入学してから成長していきたいと思っています。

卒業後も、それぞれ別の場所で活躍する高専で出会った仲間たちと高めあっていきたいと思っています。最後に、高専生活の7年間でお世話になった先生方、学生の皆様、そして毎日支えてくれた両親にこの場をお借りして感謝を述べさせていただきたいと思っています。本当にありがとうございました。

修了生の言葉

高専生活で得た教訓と目標

物質工学専攻2年 川戸 勇人

7年間、小学校よりも長く続いた高専生活も終わりを迎えました。振り返れば、入学したのがつい先日のように感じるほど濃く充実した毎日でした。そしてこの7年間で、今後の人生における教訓と目標もいくつか見つけることができました。本稿ではその過程について記したいと思います。

まず教訓について1つ挙げるなら「頭を使って努力をすること」です。私は本科の5年間、野球部に所属していました。高専に入学してから野球を始めた私は、周囲との差を埋めるべく家に帰ってから素振りをするなど努力を重ねました。その結果上達して試合にも出られるようになりましたが、腰を痛めてしまい思うように動けなくなりました。練習量では誰にも負けない努力をしても、ただ頑張る、ただきついことを続ける。このような努力には結果がついて来ず、むしろその後に悪影響を与える可能性があることを知りました。当時は腰を痛めてから様々な改善策を調べ実践しましたが、結局3年の引退まで腰痛と戦うことになり非常に悔しい思いをしました。しかしそのおかげで行動する前に考える重要さを知り、計画立てて物事を進めるようになりました。この教訓は、本科5年から専攻科2年まで3年間行った研究活動において非常に役立ちました。

研究では、成果を出すために膨大な量の実験条件からより良い条件を見出す必要があります。先述した「ただ頑張る努力」は研究においては、良さそうな条件をとりあえず手当たり次第にやっていくということになります。

もちろんそれで良い成果が出る場合もありますが、そのようにして出た成果には後がありません。なぜ良い結果が出たのか、どのような意図でその研究を行ったのか、自身で整理できないためです。逆によく考えた条件で良い成果が出た場合を考えます。その条件は熟考して得たものなので、さらに良い成果を得るためにはどこを改善できるか、どのようなファクターを加えればさらに面白い研究ができるかを考えることができます。このように「頭を使って努力をすること」で良い成果が期待できるだけでなく、物事が楽しくなり、良い成果が出た際の喜びも倍増します。そうして3年間研究活動をしていく中で研究にのめりこみ、共同研究先の研究所に毎日通い実験を繰り返す日々を送りました。そして、大学院に進学して博士号を取得するという目標を見つけることができました。現在はその目標に向け、学術論文誌への投稿を目指して研究を行っています。この教訓と目標は今後の人生においても私を支えるものであると思っています。在校生の皆様にも、高専で今後の人生につながる素晴らしい経験がありますことをお祈りするとともに、今までお世話になった皆様に深く感謝申し上げます。

本科5年クラス担任・専攻科長からのメッセージ

機械工学科
5年担任

細野 高史



社会の良い一員になろう

「クラスの団結」のような青臭いスローガンを掲げない本校では、趣味趣向の近い学生同士がグループ化し、クラス内での分断や孤立が起きやすいものです。今年度5Aは当初はその傾向が強いクラスと感じられましたが、長期間の遠隔授業により物理的に学生同士が引き離される中でも、徐々に一人一人が人との良い距離のとり方、大人としての付き合い方、相手を認め尊重する態度を身に付けつつあります。それに加え、遠隔授業によりネットワークを通じたコミュニケーションの力を醸成してきた皆さんには、社会に融和と相互理解をもたらす力があります。今後さらにそれらの力に磨きをかけ、より良い社会の実現に貢献することを願っています。

電気電子工学科
5年担任

ウリントヤ



おめでとう！これからも元気で

5年間いろいろなことを学び、経験し、大変なことも乗り越え素晴らしい成長を見せてくれました。みんなのことを胸いっぱい誇りに思っています。二年間担任をさせて頂きましたが、このクラスはとても素敵なクラスで、クラスの一人一人が個性的で、それぞれ自信をもって努力する学生でした。みんなお互いを認め合える力を持っており、クラスが強い絆で結ばれていたと思います。5年次に突然やってきたコロナ禍の中で不安を抱えながらもそれぞれの進路を決めてくれました。担任としては嬉しく感謝の気持ちでいっぱいです。これからそれぞれの新天地で頑張る皆さんの元気で楽しく活躍できることを心より願っており、いつでも陰ながら応援しております。

本科5年クラス担任・専攻科長からのメッセージ

制御情報工学科
5年担任

田中 諒



第56期5S 学生へ贈ることば

担任業務を通して、皆さんの大事な人生の一部を預かっているという強い責務を感じ、「来る者は拒まず、去る者は追う」指導を心がけてきました。私の指導がどれだけ心に響いたかは定かではありませんが、妥当だと感じた方がいれば、理不尽に感じた方もいると思います。卒業後、皆さんの進路は人それぞれですが、いずれ社会人になります。この先もっと理不尽な目に遭う機会があるかもしれません。それでも、久留米高専健児だったことを誇りに、社会の荒波に揉まれつつ、遅しくなって、OB、OGとして、将来皆さんとお会いできることを楽しみにしています。最後に、第56期5S 学生の皆さん、ご卒業誠におめでとうございます。

生物応用化学科
5年担任

石井 努



君たちは優れた少数派

生物応用化学科5年生の皆さん、卒業おめでとう。日本は民主主義の国、少数よりも大多数の意見が尊重されがちな国です。時には、少数の優れた考えが軽視され、理解されないこともあります。その中で、中学卒業後に高校でなく本校久留米高専を希望した君達は、勇気ある少数派かもしれません。入学後は、大学受験を気にすることなく、自由な環境で躍動的に学び、専門性を磨きながら成長できたと思います。時には、勉強以外に夢中になり失敗や遠回りをすることもあったでしょうが、それも貴重な経験です。卒業後は高専での貴重な経験を糧に、大多数の中でも自分の意思を貫き、成長することを期待します。

材料システム工学科
5年担任

佐々木 大輔



人生を謳歌してください

卒業おめでとうございます。未曾有のコロナウイルスにより社会全体が不安に包まれる中、進学、就職、卒業研究を進めることは本当に大変でしたね。卒業を迎えられたことを担任として嬉しく思います。社会に出てから、自身のお金と時間をどのように使って、どんな風に人生を謳歌するのは、皆さんの自由です。お金と時間を使って好きなモノを読んで見て聴いて味わって考えて、自身の糧にしてください。きっと過去と現在の自分から外挿出来ないくらい、未来の自分は変化しています。そんな皆さんと社会と一緒に形作ることができるのであれば、こんなに嬉しいことはありません。いつでも帰ってきて話を聞かせてください。楽しみにしています。

専攻科長

奥山 哲也



明日への強い意識

専攻科修了生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。この修了年度はコロナ禍による従来とは異なる研究環境下で、これまで以上に高い課題意識と自己解決力を持ち活動した“雲外蒼天となる1年”であったと思います。進路選択においても従来とは異なる対応に迫られ、自ら道を切り拓く強い意志が求められたことでしょう。修了生の皆さんは日々刻々と変化する社会情勢を産業界へ出る前に一步先んじて体験したこととなります。経験したことのない情勢への対応では、臨機応変かつ自ら行動する意欲が今後も求められることとなります。次の一步を踏み出す強い意志が次の世界を拓きます。さあ皆さん、昨日とは違う明日へ、強い意識で一步踏み出しましょう。

退職教職員挨拶

生物応用化学科
特任教授

津田 祐輔



20歳の選択

私は1994年に民間企業から久留米高専に赴任しました。27年間の長きに渡り、色々とお世話になり有難うございました。高専の特徴として、5年間の実践的な教育によるエンジニアの育成と言うのが挙げられますが、高専で教育活動を実践してきた中で、他の特徴があることに気がついています。それは、20歳での進路選択です。高校生の18歳での進路選択はかなり難しく、大学に進学する場合でも分野のミスマッチもあるようです。一方、高専の場合は、20歳の時点で、就職先もじっくり探せるし、更に勉強を続けたい場合には専攻科、大学編入の道を選択でき、高度な技術者、研究者の道を歩むことも可能です。久留米高専はこの様な多様な進路と言う点でも優れた教育環境を提供していると思います。「自立の精神と創造性」のもと、久留米高専の益々の発展を祈念し退職の言葉とさせて戴きます。

一般科目（文科系）
嘱託准教授

米永 正敏



退官にあたり

今日まで、賜りましたご支援ご厚情に、心より感謝申し上げます。皆様のお陰で退官を迎えることが出来ました。

小森野を取り巻く環境も大きな変貌を遂げ、また高等専門学校という教育制度も変革の嵐に直面し、変化の歩みを止めることはありません。目を転ずれば、構内の銀杏の木々も季節ごとに素晴らしい姿をみせています。春夏は緑の葉が生い茂り、秋は黄金色となって晩秋の澄み渡った青空に見事なコントラストを描き、冬は葉を落として枝しか見えませんが、次の生命の息吹を育てています。銀杏は変化する姿を見せながらも、大地にしっかりと根を張って、久留米高専健児の青春をやさしく見守ってくれています。小職も小森野の若者の成長を遠くから応援していきます。久留米高専の益々のご発展と、皆さま方のご健勝をお祈り申し上げます。本当にありがとうございました。

総務課
財務係長

池永 雄一郎



3年間お世話になりました

平成30年4月に九州大学から久留米高専に向向となり、この度3月末で向向期間が満了となりました。最初の1年間は用度係で、その後の2年間は財務係でお世話になりました。元々九州大学では、用度係を6年間やっていたため完全に調達側の人間で、こちらでもそのつもりだったのですが、全く予想していなかった向向中異動により財務系の仕事を経験させていただくことになりました。結果的には財務全般、会計全般の業務に携わることができ、大変勉強となったと同時に貴重な経験となりました。久留米高専の先生方、職員の皆様は優しい方が多く、学校全体もとても雰囲気がよく、大変楽しく仕事できました。高専での仕事は初めての経験で、至らぬ点多々あったかと思いますが、ご容赦頂ければ幸いです。3年間という短い期間でしたが、大変お世話になりました。

学生課
学術情報係

辻本 功



皆様に感謝です！

赴任した頃は、久留米市はブリヂストンや豚骨ラーメン発祥地と、しかし、市民満足度1位は【医療機関の充実】だそうで・・・久留米高専は全国の一高専に過ぎないと、しかし、昭和14年久留米高等工業学校創立からの伝統校で【高専制度のモデル】になったそうで・・・そんな中、創基75周年・高専創立50周年記念事業に微力ながら携わったことが一番の印象です。月日は経ち、現役生活が終わり、図書館再雇用職員になりましたが、長い間実務を離れていたせいか、多様な業務システムなどに戸惑いながらも、皆様のご支援により無事終わりを迎えられることになりました。今後は晴耕雨読生活に入りますが、小欲知足を实践しつつ、いつか地域貢献のために再生を期したいと思います。最後に、在任8年間皆様のご厚情に感謝申し上げるとともに、久留米高専の一層のご発展を心よりお祈り申し上げます。

退職教職員挨拶

教育研究
支援センター
技術職員
吉富 俊之



退職のご挨拶

久留米高専の技術職員に採用されて38年間無事に勤め上げる事が出来ました。これもひとえに皆様のおかげだと心より感謝致します。思い起こせば、毎日午後5時から8時まで学生と実験をやるのが日課で、冬の寒い日は久留米大橋までランニングをし、それからが卒研の時間でした。一年間学生と過ごす、色々大変でしたが、自分たちで作った機器で研究する日々は楽しくもありました。

今年、3月末で仕事は終了いたしますが、今後も久留米高専の発展を心からお祈りいたします。

最後に、お世話になりました、教員および技術職員、事務職員の皆様本当に有難うございました。

教育研究
支援センター
技術職員
南條 潔



退官にあたり

教育研究支援センターの南條 潔です。

この度、3月吉日をもちまして定年退職の運びとなりました。昭和49年に採用されはや47年間なんとか無事に今日を迎えられたのは公私共に皆様のおかげです。在職中はいろいろとお世話になりました。心より暑くお礼申し上げます。

退職後は、運動不足解消のため毎日有酸素運動をする予定です。皆様におかれましては、健康に気をつけて益々のご活躍をお祈りいたします。

最後になりましたが、久留米高専の益々の発展を心より祈っております。今まで本当に有難うございました。

電気電子工学科
教授
池田 隆



退職にあたって

三菱電機（長崎）の開発部に5年、県立工業高等学校に3年勤務し、平成2年4月本校電気工学科に着任後31年間、学生や教職員の皆様と過ごした日々が感慨深く思い出されます。「千里の馬は常にあれども伯楽は常にはあらず」の例えにも教育の難しさを感じ、悩んだり、研究で成果を得たり、国際会議では部活で励んだ英語が役立つなど様々な事があり学校教職の深さを感じました。学生の皆さんは、徒然草の「能をつかんとする人」にもあるように意志を持ち努力を継続し、うまくいかない時は立ち止まり、休んだり相談したりしながら希望を叶えて下さい。そしてこれからのグローバル化社会を生きる時、今一度、明治以後の技術と日本や世界の歴史を振り返り心に留めながら進んでください。

退職に当たり久留米高専の発展と皆様のご健康をお祈りし、感謝と御礼を申し上げます。有難うございました。

一般科目（文科系）
教授
安部 規子



7年間ありがとうございました

本校に着任して7年が過ぎました。1年目は創基75周年・高専創立50周年の記念式典が行われた年でもあり、全国に先駆けて創立された久留米高専の歴史を知ることができました。その年、生物応用化学科の1年生を担当しましたが、専攻科まで進んだ皆さんがちょうど今春修了式を迎え、私も一緒に卒業できることをうれしく感じています。今年度はコロナ禍のため遠隔授業に苦労しながらも、元気な学生の皆さんと楽しく授業することができました。在職中驚いたこと：(a) 久留米は夏は非常に暑く、雨がふればしばしば豪雨、冬は雪深い。(b) 4年生は昼休みに英語のCDをかけてTOEICの勉強をする。(c) 沖縄での高専弓道大会で、前夜宿舎で深夜まで大騒ぎした選手たちが、本番では男子個人優勝に加えて団体で全国大会へ勝ち進んだこと。

久留米高専の益々のご発展を祈念します。

専門学科の実験・実習の様子

機械工学科

機械工学科では1年生から5年生まで各学年で実験や実習を行っています。実験・実習を通して実践的・創造的技術者になるための基礎を体得します。今回は、「機械加工実習」「機械工学実験」「機械要素設計実験」について概要を説明します。

1～3年までの低学年では「機械加工実習」を行っています。機械、工具、道具、計測器等の実際のモノに触れ、加工に関する基礎的な現象を体得します。単にモノを作るだけでなく、熱、音、匂い、振動、手触りなどを経験することで、今後の設計や解析など行う上で必要な知識を得るとも重要な実習になります。1、2年生では、製品のできる流れを理解する実習を行います。木型にはじまり、鋳型・鋳造、旋削、ハツリ・ヤスリがけの実習は製品ができる基本的な工程になります。また、変形加工として鍛造の実習も行います。3年生では、応用としていろいろな加工にチャレンジします。平面を加工するフライス盤、製品の表面を滑らかにする研削盤、歯車を作るホブ盤、コンピュータを使ったNC加工などが新たに加わり、様々な加工を学びます。機械加工実習により、技術者としての綿密な観察、ものの見方、安全行動などを身に付けます。

4年生では「機械工学実験」を行います。機械工学実験では、機械工学における工業力学、材料力学、熱流体工学、設計工学など主要な分野に関連する実験を行い、各分野の現象や理論について理解を深めます。実験を通して、目的・内容・方法の理解、結果の整理・解析・考察能力、チームによる共同作業・調査・レポート作成能力などを修得します。

5年生では「機械要素設計実験」を行い、5年間の学習の総まとめをします。近年のものづくりの主流となりつつあるデジタルエンジニアリングについて学び、材料強度・振動・熱流体などの分野について最適設計を行います。3次元CADや3次元プリンタを用いて、設計、加工、検証試験、評価、再設計といった一連のものづくりサイクルを経験し、デジタルものづくりに挑戦します。

5年間の実験・実習を通して、実践的・創造的技術者としてのスキルを身に付け、将来のエンジニアとして活躍することを期待しています。

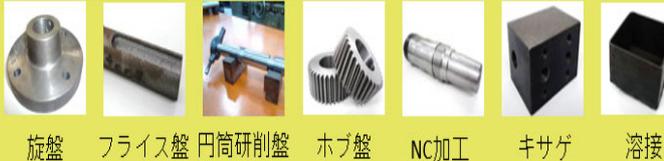
機械加工実習 (1,2年生)

...製品のできる流れを理解する



機械加工実習 (3年生)

...いろいろな加工にチャレンジする



機械工学実験 (4年生)

...歯車の精度測定



機械要素設計実験 (5年生)

...3次元CADを用いた最適設計



専門学科の実験・実習の様子

電気電子工学科

電気電子工学科では、エレクトロニクスとICT及び電気エネルギーの専門知識を修得し広い視野と豊かな心を備えて高度情報通信社会に貢献できる電気電子技術者を育成することを目指し、エネルギー（Energy）、エレクトロニクス（Electronics）及びプラクティカルコミュニケーション（Practical communication）を教育研究の柱としています。座学で得られた知見等を『実験・実習（及び演習）』を通して体験的に学ぶことで、これらをより深く具体的に習得することを目指しています。

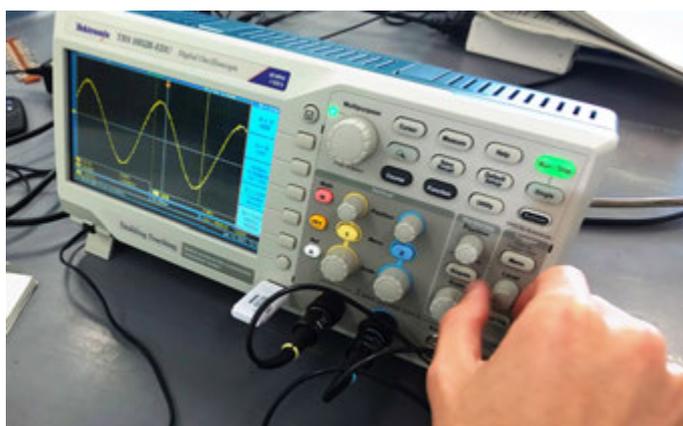
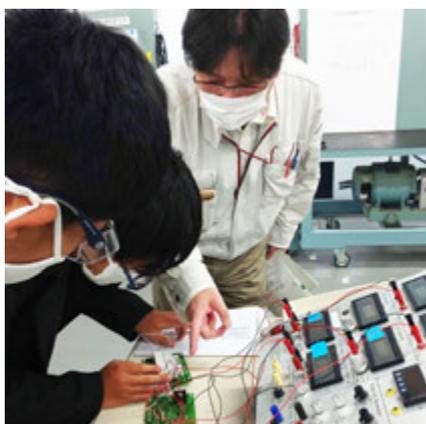
当学科における主な実験・実習は以下の通りです。

【電気電子実験1：3年生後期】 専門課程での最初の実験として電気電子回路の基礎を学ぶと同時に実験の安全な遂行とデータ解析やレポート記述の基礎を学びます。オシロスコープやブリッジ回路等や基礎的な原理を学びます。

【電気電子実験2：4年生通年／電気電子実験3：5年生前期】 この両科目では高度な電気機器や電力機器、電子回路に関する実験を行い特性や機能を理解し、また高度なデータ解析技術も学びます。直流発電機や電動機、変圧器等の特性測定、太陽光発電システムのシミュレーション及び高電圧絶縁試験（50万V規格の機器を使用）等の強電系実験や、論理回路設計やオペアンプ増幅回路、各種フィルタ回路等の弱電系実験を精力的に行っています。統計解析に適したプログラム言語であるR言語を用いたデータ解析も積極的に導入しています。今年度は一つの実験に対する学生グループを作業班と解析班の2つに分け、両班を遠隔で繋げるというWithコロナ時代に対応した学科独自の新規実験スタイルも試行しています。

また5年間を一連の流れとして低学年からのスムーズな連携および基礎的事項の理解を目的とし、学科独自の取り組みとして低学年でクラスを3班にわけ、班ごとの少人数教育を行う演習科目**【電気電子演習1：1年生前期／電気電子演習2：2年生通年】**があります。ブレッドボードや電子ブロックでの回路製作やテスターでの各種測定、コンピュータ入門やコンデンサー回路等基礎的な実験を行います。また外国人講師指導の下、英語での意見発表やディベート等のプラクティカルコミュニケーションの実践も行っています。

これらの取り組みにより5年間を通して国際社会に通用する実践的技術者の養成を目指しています。



専門学科の実験・実習の様子

制御情報工学科

制御情報工学科の学生が受講している専門科目の実験・実習について、授業内容を紹介します。

◎加工実習（2年必修2単位）

メカトロ系エンジニアが経験する機械加工、電気回路製作、プログラミング、組立てを実習します。各工程を経て、学生一人一台ずつガバナの模型（写真）を製作します。この模型は、平成17年度の卒業研究で開発したキットで、以降15年間改良を加えながら実施しているものです。ガバナとは、ワットが発明した回転機の调速機のこと、制御の起源ともいわれています。製作した模型を通じて、回転機の回転速度を一定に保つための制御装置の原理も理解します。

◎電子情報実験（4年必修2単位）

トランジスタは実は造語で「トランスファー（伝える）」と「レジスター（止める）」の両方の機能を併せ持つことを意味しています。この半導体素子であるトランジスタの発展のおかげで、電子回路および集積回路の技術が飛躍的に向上し、パソコンやスマートフォンを使っていると感じる事ができるように、今日の我々の暮らしを非常に便利なものにしてきています。電子情報実験では、トランジスタの特性をはじめとする基本的な電子回路や、論理回路、演算回路などの実験を通して、電子技術と情報技術の接点となる分野の技術を経験します。

◎制御工学実験（5年必修2単位）

制御工学および計測工学に関する工学実験です。フィードバック制御、シーケンス制御、センサーおよびアナログ・デジタルフィルタの計10テーマを一部屋（L3教室）で同時に実施し、もう一部屋で多関節ロボットの操作実験を実施します。実験は、1テーマ4名程度の班で実施し、毎回、班のメンバーが替わります。また、L3教室で実施する10テーマの実験は、実験終了直後の口頭試問により評価を行うことにより、全員のモチベーション向上を図っています。

◎情報通信実験（5年必修2単位）

情報通信実験は、IPネットワークでのデータ通信原理について、理解を深める実験です。ネットワーク関連のコマンドやツールを用いることで、通信データの流れを観測したり、行き来するデータの中身を確認します。また、サーバ・クライアント間のデータ通信が実際どのように実現されるかをソケット通信プログラムの作成によって理解し、実践的経験を蓄積します。この実験を通してデータ通信に関する基礎理論と応用の両面を学びます。



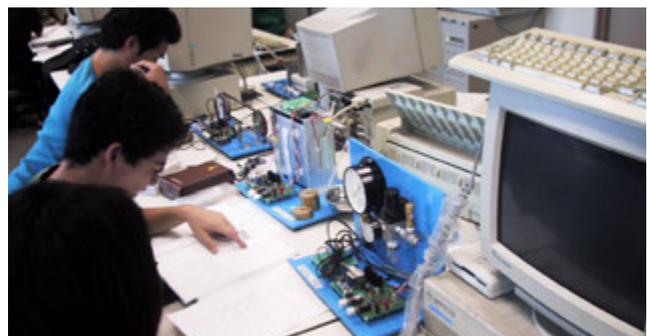
電子情報実験



電子回路学習装置



ガバナの模型



制御工学実験

専門学科の実験・実習の様子

生物応用化学科

生物応用化学科では、1年生の前期より白衣を着用しての実験がスタートします。

1年生ではまずは自身で手を動かし、考えることに重きを置いています。実験の楽しさを体験しながら、変化を観察することの大切さ、そこで観察したことを座学で学んだ化学に関連させること、生物や料理に関連した化学反応の要素に気づくことを目的とした実験を実施しています。主なテーマとしては「パンやカルメ焼きが膨らむ理由は?」「蛍はなぜ光るの?」「ゼリーが固まらない条件とは?」「カイロはなぜ暖かくなるの?」など、興味を持ちやすいテーマの実験がメインです。1年生においては可能な限り、安全な実験を計画していますが、全学年通じ、危険な作業を伴い、管理する立場に就くかもしれない将来を見据え、ときに危険な試薬や、割れやすい繊細なガラス器具にも触れ合うことで、安全に作業を行うために必要なこと、どのような点に注意すべきか、を考えてもらう機会としています。また1年生では2年生以降にはない特別なレポートの様式を設け、楽しくレポート作成ができるような工夫をしています。

2年生、3年生の実験では化学的な現象、生物学的な現象を様々な側面からとらえる実験が増えます。学年が上がるにつれ、報告書(レポート)についての制約が増え、自身が観察した現象を何も知らない人に決められた形式で報告する能力や、期限内にレポートを作成するスケジュール管理能力も問われ、大学3年生、もしくはそれ以上の能力が必要になってきます。さらに結果についてより深く、「考察」する力も求められます。

4年生以降はコースも選択されていることから、物化・化工実験や情報処理演習を通じ、将来のエンジニアとして活躍するために必要な実験や演習の時間を設けています。卒業研究にも軽く触れ合ってもらうことで、各教員の研究室での実験を通じ、進路選択への参考にしてもらっています。

生物応用化学科の実験で必要なのは学年を問わず、正しく観察し、記録を取り、座学で得た一般的な知識を観察された現象に結び付ける能力です。実験は楽しいだけではなく、時に危険なうえ、自身で考え、行動しなければならない難しい部分もあります。一方で、もしかしたら自分が世界初の発見者になるかもしれない可能性があること、むしろ失敗の中にその可能性が大きいことが一番の魅力ではないでしょうか。



専門学科の実験・実習の様子

材料システム工学科

材料システム工学科では、学科名称変更に伴い専門学科での実験・実習を大きく見直しました。1年生の新入学時から5年生の卒業研究に取り組むまでに全学年(5年後期を除く全学期)で実験・実習を行うことになっています。また、実験科目の名称を「材料システム実験1-5」とすることにより、技術の進歩、社会のニーズに臨機応変に対応できるようにしています。

1年生では、工学の基礎となるものづくりを体験してもらうために、ものづくり教育センターで「材料加工実習」を1年間をかけて行います。金属機械部品がどのように作られていくかを木型作成から始め、砂型作製、キュボラによる溶解(写真1)・鋳造、旋盤による機械加工までを体験します。特にキュボラによる溶解を用いて実習を行っている教育機関は少なく、キュボラから発せられる熱・音・匂いなどは、材料の初学者に強烈な印象を与えます。「材料加工実習」は、ややレトロな感はありますが、学生の就職先の企業の方からはとても受けがよく、今後も継続してものづくりの根幹となる部分を教えてほしいと要望されています。

2、3年生での実験は、一般科目理科で実施される化学、応用物理実験と並行して専門学科の実験も進行します。基礎的な化学実験(写真2)や金属材料試験を行いながら、実験器具、実験装置の取り扱いにも慣れていきます。

4年生では、座学で学習した専門科目の内容に準じた実験(写真3)を行うことにより勉強をし直し、材料に関するより深い理解を進めていきます。レポート作成については、質・量ともに難しくなってきたり、学生からは常に苦情の声が聞こえてきます。この実験のレポートを作成するために、図書館での参考文献の調査は熾烈を極め、例年図書館の貸し出し数では材料システム工学科がトップの座を占めています。

このようにして実験・実習で鍛え上げられた学生は、5年生に進級して卒業研究に取り組みます。材料システム実験は5年前期まで継続して行われ、卒業研究に役に立つ高度で先進的な学生実験が実施されます。(写真4) これまでは、5年後期まで学生実験を行っていましたが、令和3年度からは5年前期で学生実験を修了し、後期は卒業研究に専念できるようなカリキュラムとしています。



写真1 キュボラによる溶解



写真2 基礎的な化学実験



写真3 専門科目の内容に準じた実験



写真4 高度で先進的な学生実験

学生会の取組

五里霧中

高専祭実行委員長 村橋 知英

イベントの開催が困難になったコロナ禍における今年度でも、第55回高専祭を無事に開催することができました。来場していただいた皆様、本当にありがとうございました。

今年度の高専祭のテーマは「あつまれこうせんの森 ～ソーシャルディスタンスを守るだなも～」でした。開催前の心配は杞憂に終わり、我々の予想を上回る多くの方に、このこうせんの森に集まっていただきました。ただ、入場制限の関係上、在校生および教職員の方々以外は入場できず、例年のような大人数での開催ができなかったことが、唯一の心残りです。

思い返せば、今年度の活動は新型コロナウイルスに付きまといわれたものになりました。毎年6月に開催されている文化部発表会は中止。高専祭に向けて一番最初に取り組んだのは収容率を50%に抑えることを含めた感染防止対策を立てること。活動を始めた頃は高専祭は開催できるのか、学校の行動指針レベルが上がる度に実行委員の活動は続けられるのか、などといった多くのことを毎日のように心配していました。そのような中でも、実行委員の仲間たちと話し合い、外部の方に意見をいただき、教職員の方々にも協力していただいたり、時には、九州・沖縄の他高専の実行委員長の方々とも意見を交換したりもしました。その結果、前夜祭は雨により中止となってしまいましたが、文化祭は大きな盛り上がりのもとで開催することができ、心の底からよかったですと安堵しました。

3年生の頃に実行委員長になることを決意し、いろいろな方から励ましの言葉や、「お前ならできる!」といったような言葉もいただきました。元々実行委員の何かしらの役職に就きたいと考えていたこともあり、やる気満々で実行委員長としての生活を始めました。活動を終えた今思うことは、自分には重すぎる役であり、自分の上に立つには向いていない、ということです。実行委員を4年間続けてきて見えてきた自分の悪癖として、他の人に仕事を振れず、自分だけでやってしまうということがあります。特に今年はいろいろなことを抱え込んでしまい、他のことに気が回らなくなることが多々ありました。後輩たちとかかわることも少なく、顔と名前が一致しない人が何人もいます。もっと周りを見ることができていれば、実行委員のみんなの話や悩みなんかももっと聞くことができたはずです。反省すべき点はたくさんあります。できなかったこともたくさんありました。辛いこともあったし、面倒くさいと思うことだってありました。ですが、実行委員長になったことは一度も後悔したことがありません。私は中学3年生の時に高専祭を見に来て、それが決め手で高専に入学することを決めました。ステージ上での演奏、屋台、女装コンテストなどなど、いろいろなものを目にして、本当に楽しそうだなと思いました。そして、青い法被を着て奔走する人たち、ステージでマイクを握って進行しているMC、最後の挨拶で涙を流している実行委員長。本当にかっこいいなと思いました。入学できたら自分もあの人たちのように実行委員会で活動したい、と心の底から思いました。そして、今。あの時と同じように多くの人に来ていただき、屋台を出して買い食いをしながらステージを見て、大声でみんなで盛り上がる。そんな高専祭は開催できませんでした。それでもこうして、できることをやって、新しいことにも挑戦し、『高専祭は成功した』といえるような結果を得ることができました。後悔などあるはずがありません。

激動の一年でした。わからないことだらけの生活でした。そのような中で味わったこの感動を、私は忘れることはないでしょう。そして、この久留米高専高専祭実行委員会を誇りに思います。私にいろいろなことを教えてくれて、励ましてくれた多くの先輩方、いままでついてきてくれて、もっとわからないことだらけのなかでも頑張ってくれた後輩たち、そして4年の間、笑いあったり喧嘩したりしながらも、共に楽しみながら活動してきた同級生のみんな。この場をお借りして伝えたいです。今まで本当にありがとうございました。

繰り返しになりますが、今回の高専祭を成功させることができたのは、119人の実行委員のメンバー、教職員の方々、スポンサー企業や音響を担当して頂いた外部の方々、そして、出店、ステージ出演にご協力していただいた皆様のおかげです。心より御礼申し上げます。この手記を書いている現在、海外では新型コロナウイルスの変異種が猛威を振るい、日本でも連日のように感染者数が増加しています。これからどうなっていくかは全くわかりませんが、またあの時のような高専祭が戻ってくることを心から願います。



課外活動報告

走り終えた達成感!

サイクリング同好会 植野 太耀

サイクリング同好会は、自転車に乗るのが好き、自転車をいじることが好き、サイクリングをして旅することが好き、競技を通して強くなりたい、といった人々が集まった部活です。

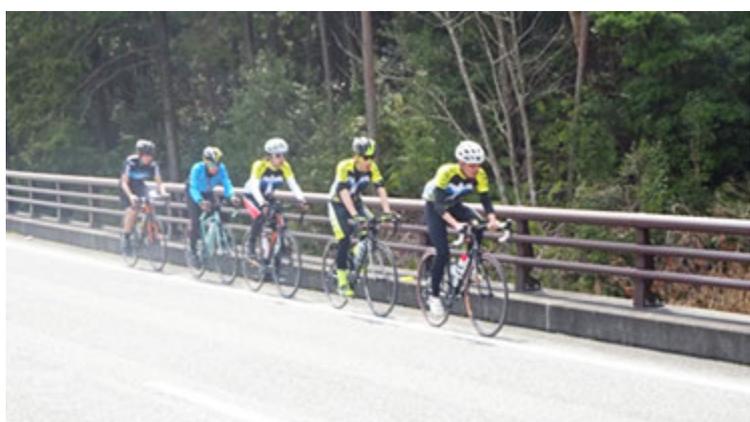
私たちの活動で使う自転車は、ママチャリとは比べ物にならない程軽くて少ない力で速く漕ぐことのできるロードバイクと呼ばれるものを主に使っています。今年はコロナの影響により活動があまりできていないですが、週に一回から二回程度を目途に活動をしています。普段は1日およそ十数kmを走ります。練習のメニューは平坦基調なコース、山がメインとなる久留米市にある高良山を登るコース、アップダウンの激しい道が基調なコースの3つがあり、いずれかのコースを走っています。サイクリング競技会に参加する部員も居ます。これら3つのコースと何回かのロングライドを経験しトレーニングに励むことで、誰でも合宿を完走することができます。合宿は、夏休み期間で2泊3日、春休み期間に1泊2日します。合宿では1日あたり100km ちょっとの距離を走ります。過去に行った場所としては阿蘇や唐津、角島などです。

以下、私が経験した合宿での話です。

阿蘇の合宿では僕は一年生の時で入部してから半年程で初めての合宿となったのですが、購入したばかりのピカピカのロードバイクで楽しみにしていたのを覚えています。1日目は学校から阿蘇の宿まで行き、2日目には阿蘇山を登り3日目には大観峰を経由して帰りました。2日目の阿蘇山は永遠と終わらない坂道が続き、何回か心が折れそうになりましたが一緒に走っている部員がいることでそれが燃料となり登り切ることができました。

角島への合宿は、1日目に下関まで行き、2日目は角島まで走った後折り返して下関まで帰り3日目で学校まででした。この時の合宿は1日平均120km とかなりきつい設定でしたが、それと同時に角島の海の美しさはただ車で行くよりも一層綺麗に見え、達成感も大きなものがありました。また、宿泊場所で自炊をしたり、宿周辺を散策したりして楽しめました。

コロナ禍ではありますが、今後もいろいろなサイクリングイベントに参加し、先輩たちに負けないような合宿コースを設定し、走破したいです。興味がある方は部室をのぞいて見て下さい。



走行中は、空気抵抗を軽減するために隊列をなして走行します



夏合宿（角島大橋前で）

各種コンテスト及び体育大会優秀結果 一覧

第57回九州沖縄地区高専体育大会の主な成績

(11月14日～11月15日)

競技種目	種目詳細	成績	備考
ラグビーフットボール		優勝	

第57回九州沖縄地区高専体育大会代替大会の主な成績

(11月8日～12月26日)

競技種目	種目詳細	成績	備考
陸上競技	男子100m	優勝、第2位	
	男子200m	優勝、第3位	
	男子400m	第3位	
	男子4×100mR	優勝	
	男子4×400mR	優勝	
	男子走高跳	第3位	
	男子走幅跳	第3位	
	男子三段跳	第2位、第3位	
	男子砲丸投	第3位	
	男子円盤投	優勝	
	女子100m	優勝	
	女子100mH	優勝	
	女子砲丸投	優勝	
	女子円盤投	優勝	
バレーボール	女子	優勝	
	男子	第3位	
バスケットボール	男子	第3位	
卓球	男子団体	第2位	

KYFA 第27回 九州高等専門学校 U-19サッカー大会

競技種目	成績
サッカー	優勝

高校生・高専生「富岳」チャレンジ～SuperCon 本選出場者によるスパコン甲子園!～

チーム名称	メンバー氏名	表彰内容
チーム krm	稲田 雄大、佐伯 勇太	文部科学大臣特別賞

第19回日本情報オリンピック本選

表彰学生氏名	表彰内容
稲田 雄大	奨励賞

5th STI-Gigaku 2020

表彰学生氏名	表彰内容
山内 郁弥	Best Research Presentation Award by Sumitomo Riko Company Limited

第14回 ISIPS

表彰学生氏名	表彰内容
熊本 楓	Session Best Presentation Award

令和2年度 大学編入学合格状況等

令和3年1月末時点

大学名	合格者数					計
	機械工学科	電気電子工学科	制御情報工学科	生物応用化学科	材料工学科	
筑波大学(理工)	-	-	-	1	-	1
千葉大学(工)	1	-	-	1	-	2
東京工業大学(工)	-	-	-	1	-	1
東京工業大学(情報理工)	-	-	2	-	-	2
東京農工大学(工)	-	-	-	1	-	1
長岡技術科学大学(工)	-	-	-	1	2	3
静岡大学(農)	-	-	-	1	-	1
豊橋技術科学大学(工)	1	1	1	5	1	9
名古屋大学(工)	1	-	-	-	-	1
京都大学(工)	-	-	-	1	-	1
大阪大学(工)	-	1	2	1	-	4
大阪府立大学(工)	-	-	-	1	-	1
岡山大学(工)	-	1	0	-	-	1
愛媛大学(工)	-	-	-	-	1	1
九州大学(工)	2	2	1	1	3	9
九州大学(理)	-	-	-	-	1	1
九州工業大学(工)	2	4	-	-	-	6
九州工業大学(情報工)	-	1	3	-	-	4
佐賀大学(理工)	1	1	-	1	1	4
佐賀大学(農)	-	-	-	2	-	2
熊本大学(工)	2	-	-	1	2	5
東京理科大学(理)	-	1	-	-	-	1
ギタクラフト・アガミ-大阪校	-	1	-	-	-	1
合計	10	13	9	19	11	62

令和2年度 久留米高専専攻科合格状況

令和3年1月末時点

大学名	合格者数					計
	機械工学科	電気電子工学科	制御情報工学科	生物応用化学科	材料工学科	
久留米高専専攻科(推)	4	4	2	3	4	17
久留米高専専攻科(学)前期	3	1	4	4	2	14
久留米高専専攻科(学)後期	7	2	2	1	4	16
合計	14	7	8	8	10	47

令和2年度 専攻科・大学院合格状況

令和3年1月末時点

大学名	合格者数		計
	機械・電気システム工学専攻	物質工学専攻	
東京工業大学大学院	-	1	1
名古屋大学大学院	-	1	1
大阪大学大学院	2	-	2
九州大学大学院	6	7	13
九州工業大学大学院	2	-	2
北陸先端科学技術大学院大学	1	-	1
奈良先端科学技術大学院大学	2	1	3
合計	13	10	23

令和2年度本科卒業予定者の就職内定状況

令和3年1月末時点

機械工学科	独立行政法人国立印刷局、九州電力株式会社、旭化成株式会社、株式会社日立プラントコンストラクション、株式会社日産オートモーティブテクノロジー、株式会社LIXIL、オークマ株式会社、KMバイオロジクス株式会社、株式会社ニコン、株式会社マツダE&T、株式会社ヤクルト本社、東芝プラントシステム株式会社、オムロンフィールドエンジニアリング株式会社、マツダ株式会社、株式会社カンセツ
電気電子工学科	株式会社栄電舎、日本放送協会、九州電力株式会社、キヤノンメディカルシステムズ株式会社、ファナック株式会社、コニカミノルタジャパン株式会社、ローム・アポロ株式会社、キヤノン株式会社、株式会社NTTフィールドテクノ、独立行政法人国立印刷局、ブリヂストンソフトウェア株式会社、株式会社明電エンジニアリング、リコージャパン株式会社、株式会社NTT東日本-南関東
制御情報工学科	TDIプロダクトソリューション株式会社、株式会社メンバーズ、富士通株式会社、東洋製罐株式会社、日信電子サービス株式会社、AMECコンサルタンツ株式会社、東新工業株式会社、ネクシオン株式会社、コベルコソフトサービス株式会社、キヤノンシステムアンドサポート株式会社、株式会社MJC、九州電力株式会社、神鋼テクノ株式会社、パナソニック株式会社コネクティッドソリューションズ社、株式会社タマディック、浜松ホトニクス株式会社、テルモ株式会社、株式会社栄電舎、株式会社日立ビルシステム、サイバーコム株式会社、AJS株式会社、ブリヂストンソフトウェア株式会社、ソニーグローバルマニュファクチャリング&オペレーションズ株式会社
生物応用化学科	AGC株式会社、花王株式会社、協和発酵バイオ株式会社、サントリービール株式会社、三洋化成工業株式会社、昭栄化学工業株式会社、株式会社スガテック、第一三共ケミカルファーマ株式会社、第一三共プロファーマ株式会社、ダイキン工業株式会社、大日精化工業株式会社、東洋インキSCホールディングス株式会社、株式会社東洋新薬、東レ株式会社、ニプロ株式会社、株式会社藤井養蜂場、株式会社三井化学分析センター、三菱ガス化学株式会社、ライオン株式会社
材料工学科	日東電工株式会社、DOWAサーモエンジニアリング株式会社、株式会社日立ハイテクフィールドディング、京セラ株式会社 鹿児島川内工場、東洋製罐グループホールディングス株式会社、佐賀エレクトロニクス株式会社、株式会社三松、アスカコーポレーション株式会社、宇部興産株式会社、株式会社LIXIL、MHIソリューションテクノロジー株式会社、伊藤機工株式会社、株式会社SUBARU、奥地建産株式会社、東京電力ホールディングス株式会社、日本精工九州株式会社、京セラ株式会社 鹿児島国分工場、日本精工株式会社、独立行政法人水資源機構

企業名は順不同

令和2年度専攻科修了予定者の就職内定状況

令和3年1月末時点

機械・電気システム工学専攻	物質工学専攻
ヤンマーホールディングス株式会社 テルモ株式会社 株式会社 安川電機 ソフトバンク株式会社 株式会社パナR&D デンソーテクノ株式会社 富士フィルムメディカル株式会社 スズキ株式会社 株式会社南陽	株式会社エーピーアイコーポレーション 株式会社エム・アンド・アイ 花王株式会社 九星飲料工業株式会社 沢井製薬株式会社 デンカ株式会社 大牟田工場 京セラ株式会社 日本冶金工業株式会社

企業名は順不同